



# Biz Com

ビズコム Vol.46

<http://www.rikkyo.ac.jp/sindaigakuin/bizsite/graduate/bizcom.html>


Contents

## 修了研究準備特集号

ビジネスデザイン研究科委員長インタビュー	1-2
11期修了生インタビュー	3
RBS News & Topics	4-6

【巻頭特集】修了研究

## 修了研究にいたるまでのプロセスを考える

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 (Rikkyo Business School 以下RBS) の修了要件には修了研究が課されています。2年生になると、ビジネスプランまたは論文形式のリサーチペーパーを学生自身が選択し、各々のテーマに取り組みます。今回は、2014年度のビジネスデザイン研究科委員長である亀川雅人教授に、修了研究に向けての心構え、取り組み方についてお話を伺いました。

### 苦手科目の履修によって 手に入れる「新しいレンズ」

RBSの修了研究は、2年生より正指導教員と副指導教員(任意)のもと、ゼミ形式で進行しています。ビジネスプランをもとに実際にビジネスを立ち上げた方やリサーチペーパーを書籍として出版した修了生もおり、例年充実した研究が提出されているのもRBSの特色といえるでしょう。ビジネスプランの策定もリサーチペーパーの執筆も、ともに社会に貢献するものが求められます。ここで、改めて修了研究の目的を考えてみませんか。調査分析に追われている12期生(2年生)はもちろん、13期生(1年生)、また修士論文に関心のある方はぜひご一読ください。

—— 12期生(2年生)は進級前に指導教員を決め、春からゼミがスタートしましたが、RBSは社会人のための大学院ということもあり、プランや論文と対峙するのが初めてという人も多いです。この時期は、先行文献を探し仮説を立てて多方面から検討を重ね、書き始めては悩んでいるという受講生がほとんどのようですが、まだまだ思うように進捗していません。

まず、ひとつの物事(現象)に対する「認識目標」、つま

り「何をどう見るか」という視点が立場によって違うということを強く認識すべきです。MBAでは経済現象や経営現象に対して、社会科学的な視点が求められます。

簡単な例を挙げましょう。1匹の犬を観て、芸術的な視点であれば、楽しさや哀愁、かわいらしさなどを文章や絵等で表現するかもしれません。動物学的視点では、犬の種類や健康状態などに関心を持つ人がいるでしょう。しかし社会科学としては、犬と社会との関係性(動物愛護の問題)や家族におけるペットの役割、犬種の経済的価値、ペットビジネスの可能性などを考えるでしょう。こうした「モノの見方」は、学問領域に固有のもので、現象を社会科学の視点で観察する目を養うことが大切なのです。

—— 視点を変えるということですか。

視点を変えるというよりは、先人達が培ってきた知識のフレームワークを利用するという事です。各学問の領域には、固有の専門用語がありますが、この専門用語を積み上げることで論文が完成します。論理的な思考とは、専門用語をブロックに見立て、これを積み重ねるようにして、1つの建造物を作る作業かもしれません。しかし、ブロック自体を変化させないと、新しい建造物ができないという事はありますね。ここに新しい発想が必要になります。

営業、企画、開発、マーケティング、経営と、それぞれみなさんお仕事では専門分野はあるでしょう。しかし、業務で得た知識のみをベースにすると、それに囚われて変化



2014年度の入学式(P4)で挨拶する亀川先生。本記事インタビューは4月中旬に行いました

やイノベーションを起こしにくいのもまた事実です。RBSにはさまざまな講座があります。会計学が苦手だった人が、これを理解することで、これまでとは異なる角度で事象を把握できるようになれば、それは大きな進歩です。「新しいレンズを手に入れた」と言えるでしょう。大変だとは思いますが、苦手な科目を積極的に履修するように勧めているのはこういった理由からなのです。

——新しいレンズ、とは希望を感じさせる言葉ですね。まだまだ研究テーマが具体化できていないので焦りを感じています。

まずは物事を「抽象化する」プロセスが大切です。関心のあるテーマや事象を経営学的な視点で見て、それ以外の視点はそぎ落としていく。どの先生もおっしゃるかと思いますが、まずはビジネスプランでも論文でも領域を決め、漠然としたものから絞りこんでいくことから始めましょう。それにより、本当に関心のある分野がなんなのか、といったことが見えてきます。

## 社会人経験と問題意識に基づき フレームワークを構築してみる

——学部からそのまま進学する院生と、働いてから入

学してくる社会人院生とでは研究領域の決め方に違い  
はありますか？

RBSには学部から直接進学してくる学生はおりませんが、学部学生が大学院に進学する場合には、基本的にはゼミで勉強していたことの延長線にあり、これをさらに深めようということが目的です。したがって、研究領域や研究計画が決まっており、入学当初より論文の執筆に取り掛かります。しかし、社会との接点が多くありません。つまり、自分の研究がどのように社会貢献になるのか、という意識が薄いのです。一方で社会人院生は顧客や取引先企業などとの接点を持ち、ある種の問題意識を抱えています。この問題意識こそが社会貢献につながるのです。それは社会人学生ならではの強みといえるでしょう。

今回、夏のMBA Intensive※で医療・介護・福祉向けクラスを初めて設置しましたが、講師はRBS修了生が中心です。人材育成の面でもRBSを設立した成果が少しずつ出てきています。

——ビジネスプラン、論文にしても、提出は2015年1月。残り数ヶ月で実りあるものを完成させたいと考えています。

どのようなテーマであっても、論文や本を読んだだけでは忘れてしまいます。他人の文章を読むことは、理解して記憶することではありますが、自分で考えることではありません。論文は、自らの思考力を問うものです。自分で考えることで様々な知識が意味のあるつながりを持つようになります。

今年度は、ビジネスプランを選択した学生が多いようです。論文は、他人の受け売りでも形になりますが、ビジネスプランは自分自身で考えねば意味がありません。独創的なプランを期待したいですね。

——後期課程(博士課程)を視野に入れる方もいらっしゃいますね。

2014年度後期課程入学者の入試は受験者8名、合格者4名でした。いずれも社会人大学院で前期(修士課程)2年間を経験したあとの挑戦です。3年で博士号を取るとは大変難しいため、さらなる研究心が必要となります。まずはビジネスプランやリサーチペーパーにじっくり取り組んでみることから始めてみましょう。

取材：星裕水、山原聖子

※MBA Intensive

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科と日経Bizアカデミーが共同で開催する夏期集中講座。RBSのMBA教育を気軽に体験できるとあって毎年好評を博しており、受講をきっかけにRBSに入学する人も少なくありません。2014年は新たに医療・介護系経営人材育成を目的としたメディカルクラスを設置しました。